

会報

(No.470)

2021年1月

題字：故 津村重舎元会長



ナンテン (シロミナンテン) (写真提供：元昭和大学薬学部 磯田 進 先生)



公益社団法人 東京生薬協会

Tokyo Crude Drugs Association

新年のごあいさつ

東京都福祉保健局 健康安全部長

高橋 博則



明けましておめでとうございます。

昨年一月より国中が新型コロナウイルス感染症の猛威により、多くの国民の健康が損なわれ、経済活動も大きく停滞してしまいました。本年こそ、私たちがこの感染症を克服し、公益社団法人東京生薬協会の皆様方にとって健やかで明るく、飛躍の年となりますようお祈り申し上げます。

さて、全ての団塊の世代が75歳を迎えるまで、あと4年。東京は、今後、更に高齢化が進んだ「超超高齢化社会」を迎えようとしており、人生100年時代を見据えた「高齢者が元気に活躍し、心豊かに暮らせる東京」の実現が急務となっています。

こうした状況の中、貴協会が進めておられるOTC医薬品やセルフメディケーションの普及啓発は、都民が自ら取り組む健康づくりに大きく寄与するものであります。今後も皆様の都民の健康管理、健康づくりへのお力添えをよろしく申し上げます。

都においても、本年、地域連携薬局や専門医療機関連携薬局を知事が認定する制度を創設するなど、医薬品医療機器等法の改正を踏まえ、医薬品等をより安全・迅速・効率的に提供するための取組や、住み慣れた地域で患者が安心して医薬品を使うことができるための取組を進めてまいります。

一方、薬物乱用では、危険ドラッグの検挙数は減少傾向にあるものの、大麻は平成26年以降、全国の検挙人数の増加が続いており、特に20歳代までの若年層が顕著となっています。また、覚せい剤は検挙人数が依然高止まりの状態です。こうした状況を踏まえ、今後とも都は、普及啓発の強化など、関係機関や地域団体の皆様方と連携して総合的な取組を行ってまいります。

貴協会に管理運営を委託しております薬用植物園は、薬用植物に関する正しい知識の普及に役立てるため、一般の方々に園内を開放し、薬草教室をはじめ、一年を通じて様々なイベントを開催しております。昨年は、残念ながら新型コロナウイルス感染症防止のため、多くのイベントが中止となりましたが、こうした閉塞した状況の中だからこそ、薬用植物園は、地域の方々にとって癒しの場となっているのではないのでしょうか。貴協会の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。今後の運営についても、感染防止対策を踏まえ、引き続き、都民に親しまれ、また、多くを学べる施設となりますよう皆様と連携しながら、事業を進めてまいります。

貴協会の皆様におかれましては、これまで生薬や漢方薬が伝統と実績に基づく安心と信頼により国民に支持されてきた経緯を踏まえ、今後とも、都民の保健衛生の向上に一層ご尽力いただきますよう、お願いいたします。

本年、都は、都民・国民の皆様のご理解とご協力の下、新型コロナウイルスという見えざる敵に打ち勝ち、世界中の人々の絆を更に強めた象徴となる東京2020オリンピックパラリンピックの開催を目指しております。

この歴史的な2021年が、貴協会の皆様方に幸多き素晴らしい年となりますよう、心からお祈り申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ

公益社団法人東京生薬協会 会長

藤井 隆太



新しき年を迎え、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

会員並びに関係団体の皆様におかれましてはよき新年を迎えられましたこと、お喜び申し上げます。

今般、新型コロナウイルスにより亡くなられた方々には深く哀悼の意を捧げますとともに、ご親族の皆様にお悔やみ申し上げます。また罹患された方々、そのご家族の皆様、感染拡大により生活に影響を受けている方々には、心よりお見舞いを申し上げます。感染リスクの中で職務を全うされている医療従事者、エッセンシャルワーカーの方々をはじめ、感染防止に日々ご尽力されている皆様に深く感謝申し上げます。世界的な新型コロナウイルス感染症拡大により、様々なイベントが相次いで延期となっています。こうした中、当協会のイベントも延期・中止となっておりますが、新たな枠組みとしてWeb会議ツール等を使用したオンライン上での活動の拡充を図っております。昨年の9月には、ウェブサイトのフルリニューアルを行いました。フルリニューアルにより、国民の皆様がより使いやすいウェブサイトを目指し、新しい情報をお伝えできればと考えております。

東京都から管理運営を受託しております東京都薬用植物園は、継続的な薬用植物の栽培とともに、新しい生活様式に沿った形でイベント等を実施し円滑な運営を進めております。これからも国民の皆様に対し薬草教室、薬用植物・生薬に関する講座などを会場開催とオンライン開催を併用したハイブリッド形式にて提供して行きたいと考えております。

当協会の薬用動植物国内栽培事業につきましては、栽培技術や優良薬用植物の種苗の提供等における多くの知識経験を活用し、公益性の高い事業として、全国7自治体において国内栽培に対する支援を継続実施しております。昨年は、各地区の栽培指導並びに自治体担当者と当協会栽培指導員の間で現状と課題を話し合う合同会議は中止となりました。本年の合同会議は、秋田県八峰町と美郷町の合同開催にて行う予定です。また、キキョウ栽培に関する『栽培の手引き（マニュアル）』を薬用植物国内栽培事業委員会にて作成中です。各地区から生薬が出荷出来る体制が整いつつあり、医薬品及び食品への配合が開始されております。各地区で栽培された生薬原料を製品に配合し、品質ならびにイメージの向上により大幅に売上が向上した例も報告されております。

美郷町では、動物生薬としての上海ガニ（チュウゴクモクズガニ）の3回目の稚ガニ放流を行いました。美郷町の環境で越冬出来ることが実証されたこと、生存率42.6%、水槽の環境、水温と脱皮の関係が確認でき、1,134個の脱皮殻が取れたこと等を環境省に中間報告を提出しました。

第13回 OTC 医薬品普及啓発イベント「よく知って、正しく使おう OTC 医薬品」は、Web開催にて実施しました。イベント動画を YouTube で配信し、オープニングには、厚生労働省の山本医薬担当審議官、東京都の小池知事、日本薬剤師会の岩月常務理事にご挨拶をいただきました。参加企業は23社、Web参加者は約40,000名と都内での啓発事業としては最大規模になっていると評価されています。

本年も当協会は、優良生薬の確保とその振興を図り、生薬業界の発展向上とあわせて国民の保健衛生の向上に寄与し、公共の福祉に貢献するような各種事業に取り組んでいきたいと思っております。

おわりに、新たな年が皆様にとりましてよき一年となりますようお祈り申し上げます。

会報

目次

No. 470 2021年1月

【表紙】ナンテン 写真：元昭和大学薬学部 磯田 進

■ご挨拶

- 巻頭言：新年のごあいさつ…………… 東京都福祉保健局 健康安全部長 高橋 博則 …… 2
ご挨拶：新年のごあいさつ…………… 公益社団法人東京生薬協会 会長 藤井 隆太 …… 3

■寄稿

- 新型コロナウイルス感染を心配して来院した症例
…………… ヨシコクリニック院長 高木 嘉子 …… 5
コロナに対する日本漢方での考え方…………… 公益社団法人東京生薬協会 顧問 小根山 隆祥 …… 8
生薬の有用性散策 (17)…………… 元北里大学生命化学研究所 布目 慎勇 …… 11
薬用植物栽培地を訪ねて(3)新潟県新発田市・新潟市
…………… 広報委員会 委員長 池村 国弘 …… 14
委員会だより …… 20
連絡事項・行事報告 …… 23

【裏表紙】四季の薬草・ナンテンの解説…………… 元昭和大学薬学部 磯田 進

新型コロナウイルス感染を心配して来院した症例

● ヨシコクリニック院長 高木 嘉子 ●

新型コロナウイルスの感染といってもウイルスの感染症であるから病気の進行は太陽病たいようびょうから始まり、六病位を経過して行くことに変わりはない。直中の少陰病じきちゅうしょういんびょうで始まる場合もある。風邪やインフルエンザと治療法は変わらない。これから挙げる症例はコロナ感染の検査をしていないので感染の有無は不明である。

症例1 学生 男性 18歳

初診 令和2年3月11日

主訴 咳が続く

北海道余市の高等学校で3年間寮生活をして、2月29日に卒業式があった。両親も出席し、3月1日に3人で帰宅した。2月26日頃、寮で熱発者が出た。自分は発熱することはなかったが軽く咳が出ていた。3月4日に咽頭痛が出て37.6℃の発熱があり、5日は38.5℃、咳が出るようになった。めまい、嘔気が少しあったが夜には37.0℃と下熱し、食事もとれた。その後は36.5℃と平熱が続いているが咳だけが残っているので心配になり保健所へ電話した。

新型コロナウイルス感染ではない様子なので近医を受診すると言われたがどうでしょうかと母親からの電話である。小学生の頃から通院していたので、電話で応対してほしいと母の願いもあり電話で診療をした。

体格やや痩せ型、舌には白苔軽度、顔にやや赤みがあり、口乾（-）

いつも風邪をひくと柴胡桂枝湯を飲むので柴胡桂枝湯エキス6gを分3にして朝・昼・夕

滋陰降火湯エキス2.5gを寝る前の服用とする。

3月12日、発熱なし（36.3℃）夜の咳もほとんど気にならなくなった。調子よいと柴胡桂枝湯エキスを持って行き廃薬となった。母もこの日に37.4℃の発熱あり電話診療で柴胡桂枝湯を処方。

2日後に元気になった。

症例2 学生 男子 19歳

初診 令和2年4月21日

主訴 発熱

午前の外来が終わったとき 電話口で「発熱37℃あり だるくて仕方がないので診てほしい。」と泣きそうな声で訴える。昨夜、咽頭痛があり発熱36.8℃。食欲はあり、咳もなく早々に寝た。今朝からだるくて仕方ないという。

体力中等度、脈候 浮、舌候 苔なく、赤い顔をしている。腹力中等度、寒いと思って服を着るとしばらくたって暑くなって脱いでしまう。脱ぐとまた寒くなるという。体の痛みはない。桂枝麻黄各半湯エキス4.5gを処方する。朝・昼・夕の服用
4月23日 電話をして様子を聞くと薬はおいしく飲んで翌日には発熱もなく、暑い寒いという感じもとれて、今朝は元気になったと明るい声で答え「僕はコロナ感染ではないですよ」というので大丈夫よと答えた。

症例3 販売員 女性 43歳

初診 令和2年5月18日

主訴 発熱

14日夕 37.5℃

15日朝 37.2℃、夕方37.3℃

16日、17日と37.2℃が続いている。

咽頭痛、咳、寒気、食欲の異常などない。

自然食品販売のレジ係をしているので休むように言われたので、入社していない。

職場では、新型コロナ感染者は出ていない。今朝から息苦しく動悸がするようになった。

体温37.6℃ 保健所へ電話したら新型コロナウイルス感染ではないと言われたが、いつまでも熱が続くので、やはり心配になったと来院。

身長154cm、体重40kg、脈候 弦、舌候 薄い白苔（+）

腹候 腹力中等度よりやや軟、柴胡桂枝乾姜湯の圧痛（+）、胸脇苦満きょうきょくまん右（+）、

柴胡桂枝乾姜湯エキス7.5gを処方
5月21日、36.4℃と下熱し気分もすっきりしたが、
どうするかと電話あり廃薬とした。

症例4 主婦 46歳
初診 令和2年5月22日
主訴 微熱が続く

2月末から咽頭痛と微熱が出はじめ、両方の鎖骨
の下が痛く気管支炎と言われて服薬した。3月に
入っても微熱が続き、鎖骨の下の痛みが出る日と
出ない日とある。咽頭痛はとれたが空咳が出て咳
払いをすることが多い。息切れして時々息苦しく
なる。

新型コロナウイルス感染が気になるので電話診療
をしてほしいという。

身長158cm、体重50kg、食欲はある、口がパ
ササして乾くが、水分を多く飲みたくはない。
舌には白苔があり、微熱、口乾、息切れ、舌苔か
ら柴胡桂枝乾姜湯エキス7.5gを処方

5月26日、解熱し鎖骨の下の痛みもとれ息苦し
さが少なくなったと電話、

柴胡桂枝乾姜湯エキス7.5gを処方

6月2日 新型コロナウイルス感染の心配もと
れ息苦しさととれたとはじめて来院。

喉のつかえ感が時々あるのでその薬を入れてほ
しいという。半夏厚朴湯エキス6gを分2にして朝・
夕、柴胡桂枝乾姜湯エキス2.5gを昼の服用とす
る。

6月10日、調子よいのでもう少し飲みたいと一
週間分持って帰った。

症例5 小学生 男児 10歳

初診 令和2年5月26日

主訴 胸の締め付けられる感じ

症例4の子供で5月20日過ぎに母親の胸の締め付
けられる感じということを知っていたためか、5月
25日頃より胸がしめつけられて胸が痛いと言いは
じめたという。発熱、咳、咽頭痛なく食欲もあ
る。母親同様に口が乾くという。母親の電話再
診の折に(5月26日)電話診療をする。

身長140cm、体重37kg、舌に白苔軽度認め
るという。柴胡桂枝乾姜湯エキス5gを分3にして
朝・昼・夕の服用とする。

6月2日 来院。胸はまだ苦しい。柴胡桂枝乾姜湯は
からい。胸脇苦満を認め白苔軽度認めるので柴胡
桂枝湯エキス2gを朝、半夏厚朴湯エキス3gを分
2にして昼・夕の服用とする。

6月10日、たまに苦しくはなるがほとんど症状は
出ないという。一週間分を持って帰った。

症例6 会社員 男性 25歳

初診 令和2年3月16日

主訴 めまい、息苦しい

呼吸をしても肺に空気が入らない感じがする。毎
朝37℃の発熱があり一か月続いている。仕事場に
発熱のある人、コロナウイルス感染はいないが、
洋服の販売員をしているので、お客さんにどのよ
うな人が来るのか分からないのに店は休みになら
ないと嘆く。体格やや痩せ型、脈候 浮、舌候 苔
なし、胸部に異常所見なし、腹力中等度、異常所
見なし、甘麦大棗湯エキス6gを分2にして朝・夕
の服用、感冒の症状のあるときに桂枝湯エキス
7.5gを飲むように処方し、今回は服用ですっか
り良くなった。

前の職場を3月いっぱいまでやめて、5月から新し
い職場に移ったが同様に洋服の販売員をする。

5月7日に発熱37.5℃あり、この日が新しい会社
の初出勤日であったが仕事を休んだ。体が重く頭痛
がし、息を吸うと胸が痛くなる感じがして仕事に
は一日も行っていない。

昨日、仕事に出て来るようにと会社から電話が
あった。息苦しさがひどくなって発熱は37℃ある
ので保健所に電話した。新型コロナウイルス感染
ではなさそうなので近医で診てもらおうように言わ
れて来たという。

胸部に異常所見なく、脈候 浮、舌候 苔なし、咽
頭発赤なし、腹部には臍上悸を認める以外所見な
し、3月の時のこともあるので、甘麦大棗湯エキ
ス6gを分2にして朝・夕。桂枝加竜骨牡蛎湯エキ
ス6gを分2にして昼・寝る前の服用とし、白血球
数、CRPも正常値である。当院では胸のX線写
真は撮れないので他院へ紹介した。

結局、胸のX線写真に異常所見なく一週間の服薬
で症状は治まった。

症例7 女子高校生 18歳

初診 令和2年5月18日

主訴 発熱

12日 朝37.1℃、夜37.0℃、13日37.0℃、14日 朝36.6℃、昼夜37.1℃

15日朝37.1℃、夜37.4℃、16日～17日も37.2℃と微熱が続き総合感冒薬を飲んでいて、咳や咽頭痛はない。今朝36.7℃、少し頭痛がある。嘔気、口の粘りがあり食欲がない。

身長160 c m、体重52 k g、脈候 浮、舌候 湿った白苔軽度、腹候 腹力中等度よりやや軟、心下

痞あり、胸脇苦満僅かに認める、頬に少し赤みがある、柴胡桂枝湯エキス6 gを分3で朝・昼・夕の服用とする。

5月20日、発熱はとれ、耳閉塞感が少しある。食欲もあり他は調子よい。

香蘇散エキス7.5 gを分3で処方

5月25日、耳閉塞感もとれ、発熱なく食欲もあり、コロナウイルス感染の心配もすっかり取れて良かったと香蘇散を3日分持って行き廃薬となった。

コロナに対する日本漢方での考え方

東京生薬協会 顧問 小根山 隆祥

間もなく節分。鬼の出番です。「鬼は外 福は内」の音が聞こえてきます。

「鬼」は、私が勉強している「神農本草経」の中にも出てきます。神農本草経の中に収載されている生薬名としても、またその生薬の効用に関する用語としても出てきます。「鬼」の付く生薬名としては、下薬に収載される「鬼白」(キキユウ。メギ科ミヤオソウ属の植物の根茎で、「蟲毒・鬼注精物を殺す」と記されている)の1種類のみですが、別名に「鬼」の字を含むものも挙げれば表1のようなものがあります。

表1

(三品分類)	(生薬名)	(別名)
上薬	人參	鬼蓋
	徐長卿	鬼督郵
中薬	蒿本	鬼卿
	衛茅	鬼箭
下薬	石南草	鬼目*
	羊桃	鬼桃
	羊蹄	鬼目*

*どちらも「鬼目」だが、異なる植物に同じ別名を用いる場合がしばしばある。

人參=チョウセンニンジンが植物が日陰を好み、覆いをして生育するので、鬼に蓋を付けた別名キガイ鬼蓋を持ちます。

ジョウチョウケイ徐長卿はキョウチクトウ科スズサイコの根茎

コウホン蒿本はセリ科Ligusticum属コウホンの根茎

エイボウ衛茅はニシキギ科ニシキギの枝に出るコルク質の翼

セキナンソウ石南草はバラ科オオカナメモチの葉

ヨウトウ羊桃はマタタビ科シナサルナシの茎・根

ヨウテイ羊蹄はタデ科ギシギシの根

用語としては「鬼物」「鬼精」「鬼注精物」など「もののけ」や慢性の伝染病を示す用語、「温鬼」など原因不明の熱病を示す用語がみられます。これらをまとめて考察すると、「鬼」の付く用語は、不可思議で人智では考えられない現象・症状に使用されているようです。

鬼は陰(漢音はイン、呉音はオン)の字の「オン」

が「オニ」に変化し、「鬼」の字があてられました。陰は「ひそかに」「かくれる」という意味があり、感じがするだけで姿が見えず、気配におびえる状態で、それを可視的に現したのが角つののある鬼面です。

今のコロナ禍の時代、コロナの姿は見えず、本日の東京は〇名、大阪は〇名…と数字がニュースとなり、コロナはいつになったら収束するのか、自粛せよ、緊急事態宣言をする・しない…などと議論され、全て一年間の計画も中止または延期されている状況です。検査で陽性と判断されれば、程度によっては自由を束縛されることすらあります。

目に見えないコロナの存在に、密を避け、手を洗え、マスクをせよ、消毒・うがいするよう指示され、それに従っている不安な日常です。

鬼に怯えているのと同じようですね。

傷寒論の序文には

「余宗族素多。向余二百。建安紀年以來。猶未十稔。其死亡者三分有二。傷寒十居其七」

(私の一族はもともと200名に余る程いたが、AD220年〈森立之 傷寒論攷注による〉から十年もたたないうちに、死亡するものが3分の2にも達した。その中で70%は傷寒=急性熱病にかかって死んだ。)と記載されています。これが「傷寒雜病論」を記載したきっかけになったと教わっています。

この後も疫病は流行しました。

日本では奈良時代に痘瘡=天然痘(735~737)と麻疹=はしか(737)が連続して流行し、その後、平安から江戸の各時代においても流行を繰り返し、多くの死者を出しています。

江戸時代では痘瘡が8回、麻疹は10回も流行し、更に羅列刺=コレラも流行したと記録に残っています。歴史は繰り返します。

1918年のスペイン風邪の流行の際には日本では漢方薬が使われています。

現在、このコロナに対して中国政府はいち早く対応して、傷寒雑病論の中から麻杏甘石湯・五苓散・小柴胡湯・射干麻黄湯・茯苓飲などの薬方を選び、これを融合して、新たに「清肺排毒湯」を創成しました。

〔表2〕

清肺 排 毒 湯	柴胡16 茯苓15 山薬12
	麻黄 杏仁 桂枝 沢瀉 猪苓 白朮 姜半
	夏 生姜 紫苑 冬花 射干 藿香 各9
	黄芩 細辛 枳実 陳皮 炙甘草 各6
生石膏15~30	以上21味

この薬方の臨床結果は51.8%の有効性を認めたと報告されています。

また、週刊誌の関連する記事を見ますと、コロナと確定して、四川省の病院に入院した患者98人に投与したところ、9割以上の患者が改善に向かい、副作用発生率は0.07%、その後死亡に至った者はいなかった。と記載されています。

但し、コロナの患者を治療の段階において、初期・中期・重期・回復期に分け、また症状を軽型・普通型・重型・危篤型に、更に寒湿性か熱湿性に分けています。

清肺排毒湯を基本方として、構成している生薬の量を加減し、また必要があれば、他の生薬も加味して、各ジャンルの患者に投薬しています。

人によって、症状は色々に変化して出てくるので、この様な手段をとっているのでしょう。

空気中には様々な微生物が浮遊して、服の着替え、ドアの開閉でも目に見えない埃が立って鼻の中に舞い込み、喉の奥の痒み・イライラ感・不安感を覚え、通称「ノドチク」となります。この症状はコロナの有無とは関係なく、通常の変化でも良く起こる症状です。

異常感覚を覚えると、高木先生の記事にあるように、コロナではないかと思い、心配する方がいます。

漢方は個人差の医学です。

「ノドチク」には、冷えの強い時は麻黄附子細辛湯。熱っぽい時には桂麻各半湯。

咽喉の痛い時には小柴胡湯加桔梗石膏。

味覚・臭覚のわからない時には小柴胡湯。

水っぽい咳の時には小青竜湯。

熱があるようで、咳が出る時には麻杏甘石湯・五虎湯・射干麻黄湯。

乾いて激しい咳には麦門冬湯など。

漢方では個人個人のそれぞれの症状に対して、漢方薬を投薬しています。

コロナ専用の漢方薬はありません。

その時に現れている自覚・他覚の症状に対して、適正な漢方薬を投薬します。

服薬と同時に普段からの養生も必要です。養生によって、生体内の防御能を駆使して、自分の免疫力を増加することです。免疫力を育てる方法は、①血行を良くすること、②免疫を高める食事をとること、そして③睡眠です。

①血行を良くするには「体温を上げる」「歩くこと」「血液をサラサラにすること」です。

体温を1度上げると、免疫力は5~6倍に増えると言われています。

血流を増すにはお風呂に入ることが一番の効果があります。シャワーで済ませるなんてとんでもないことです。

また運動することにより、筋肉が熱を発生し、体温を高めます。散歩は胸を張り、肺の換気量を増やしましょう。

日本漢方には江戸時代に創成された「気血水学説」というのがあります。体内の気・血・水がバランス良くコントロールされていれば、からだは健康だという考え方です。

気をめぐらせることで、血・水もめぐることが出来る。血液をサラサラにして、血行を良くすることが出来るということです。

気を巡らすには気分を爽快にして、鬱の状態を開放しなければなりません。

普段とる食事にも、大いに気を付けなくてはけません。

②免疫を高める食べ物はバナナ・ニンニク・玉ねぎ・キャベツ・大根・カリフラワーなどがあります。我々の口内・腸管・皮膚上には数多くの細菌があり細菌叢と呼ばれ、多様な共生状態を作って

います。細菌叢のあるお陰で、毒性の強い細菌を排除しているのかもしれませんが。味噌・醤油などの発酵食品を食べると、腸内細菌を育て、増やします。野菜・果物・穀類・海藻・豆類・キノコ類・シード（種実）類・茶・香辛料など和食の材料は糖脂質を多く含み、マクロファージを元気にし、免疫を高めます。

食事は八分目の食事を定時に食べることを心がけましょう。

③睡眠は交感神経と副交感神経とのバランスで、昼間は体を動かすことで交感神経が活発になり、免疫とリンパ球が増加、活性化します。寝る時間と起きる時間を決めて規則正しい睡眠をとることにより、体にリズムを与え、免疫力もついてきます。

日本漢方でコロナ禍の生活を乗り切りましょう。



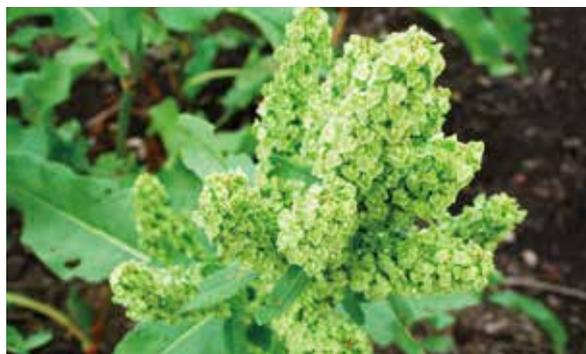
キカイ
【鬼蓋】 オタネニンジン



キセン
【鬼箭】 ニシキギの枝に出るコルク質の翼＝生薬名：衛茅 エイボウ



キケイ
【鬼脚】 コウホン＝生薬名：蒿本 コウホン



キモク
【鬼目】 ギシギシ＝生薬名：羊蹄 ヨウテイ

生薬の有用性散策 (17)

—風邪に対する世界の民間療法—

元北里大学生命化学研究所 布目 慎勇

I. はじめに

昨年は新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) によるパンデミックが発生し、世界の様々な分野に大きな被害を及ぼした一年であった。風邪のウイルスにはライノウイルス、コロナウイルス、アデノウイルスなど多くの種類があり、COVID-19もその仲間と思われた。ところがCOVID-19は風邪とは症状が異なり、発熱や味覚・嗅覚異常、倦怠感などが表れ、瞬く間に世界中に広まり、感染の波が収まりそうにない。

風邪は主にウイルスや細菌により引き起こされ、古くから咳やくしゃみなどの症状をまとめて風邪として扱ってきた。現代では風邪の治療は西洋医学に基づく対症療法が主流となっている。一方民間療法や民間薬は、風邪によって起きる様々な症状に対し、予防や治療の効果を期待して経験的に見出されたものである。風邪は季節の変わり目や冬に感染することが多く、さらにCOVID-19が重なる可能性もあり、日常の体調管理が重要となる。そこで風邪に対する世界の主な民間療法について、各種資料や聞き込み情報などを整理し、風邪症候群に対処する参考資料とした。

II. 世界各地の風邪の民間療法

1. 風邪の民間療法の地域差

古来感染症は人類にとって重大な疾患であり、伝承による民間医療のほか中医学やアユルベーダなど各種伝統医学の中にも風邪に対する治療法が記されている。中医学では三大古典のひとつ、『傷寒論』(張仲景、漢代)は風邪やチフスなどの感染症に対する実践を記した書であり、古くから深刻な疾患であったことをうかがわせる。

風邪をひくとくしゃみや咳、鼻汁、発熱、息苦しさ、頭痛、腹痛、倦怠感などの症状が表れる。風邪は熱帯から寒帯まで幅広く発生し、流行時期や気候風土、生活環境の違いなどから感染率や重症度、死亡率には違いがみられる。また風邪の際

に利用する伝統医療や民間療法にも夫々地域に根ざした特徴がみられる。新薬でも欧米と日本では用法・容量が異なるものもあり、民間療法は安全性が高いものの、誰にでも同様の効果が得られるとは限らない。ここで取り上げた風邪の民間療法は一般に広く用いられるものであるが、不安がある場合は専門家に相談することを薦める。

2. 風邪の主な民間療法

日本人は1年に平均2~3回風邪をひくといわれる。症状が軽い場合は薬局で新薬や漢方薬を購入して服用し、また民間療法も利用し、程度に応じて病院で治療を受けるのが一般的であろう。日本でよく知られた風邪の民間療法として、身体を暖かくするとともにお粥、くず湯、生姜湯、ネギ、ニンニク、大根などの利用がある。世界各地には風邪に対し、様々な伝統的な予防法や治療法が知られている。それら民間療法を記した各種資料(ジー・ユー編『風邪』1994、その他)のなかで、比較的実行が容易なものをまとめて表1に示した。

表に示した民間療法の中で、よく使用される材料には生姜、レモンやオレンジなどの果汁類、紅茶、香辛料があり、現在では比較的入手容易な食材である。甘味料には蜂蜜や砂糖が用いられ、お湯や紅茶、アルコール類に加えて飲むというものである。それら材料の風邪に対する主な効果として、生姜には解熱鎮痛や健胃作用、果汁類にはビタミンの補給や精油成分がもたらす清涼感や予防効果があり、疲労回復にも有効とされる。蜂蜜や糖分は水分補給となるお湯やハーブ類の煎液、果汁に加えられ、身体を温めるエネルギー源の補給となる。その他の方法として睡眠や休息を記した文献も多く、現代でも予防や治療として体力や免疫力の回復に有効である。

なおアルコール飲料は症状の緩和、軽減よりも、むしろ嗜好品の意味合いが強いように思われる。日本でも「卯酒」が利用されてきたが、江戸時代の養生書の中には「酒は避ける」と記されて

いるものもある。長年「酒は百薬の長」といわれ、また「少しは飲んだ方が健康に良い」といわれてきた。ところが最近統計が見直され、飲酒量に比例して様々な死亡リスクを上げることが判明しており、風邪をひいた時のアルコール類は勧められない。

生姜は主としてアジアで栽培され食用にされており、風邪の時には世界的に広く利用されている。風邪は寒気がして咳が出ることが多いが、生姜を利用する場合は加熱して“乾姜”とし利用するのがお薦めである。即ち生姜を圧力鍋やフライパンで10分ほど加熱すると、主成分の一種ジンゲロールがショガオールに変換される。ショガオールには鎮咳や体温上昇作用があり、風邪には一層効果的である。

3. 聞き込みによる情報

筆者が世界各地で生薬等に関する調査していた際、風邪の民間療法についても情報収集していたことがある。聞き込みは主としてヨーロッパ、北アフリカ、中東、アジア、中南米で行い、現地の薬局や薬草店、現地ガイドなどから情報を得た。食品市場でもしばしば薬草類を扱う店を見かけるが、繁用品を並べていることが多く、実情を得る情報源となる。各地の情報を整理してみると、同一地域内でもかなりの違いがあり、なかには効果の疑わしいものもある。また知識として一般に知られているものの、実際に活用するか否かは個人差が大きいため、以下に凡その様子を略記した。

- 欧米では風邪をひいた場合、薬局で薬を購入し、症状が重い場合は医療機関に行くという例が多いようである。ヨーロッパでは予防や軽度の場合、しばしばハーブティーやレモンティーを飲み、高齢者は伝統的な予防法や治療法も利用するとの話である。

- 中東はアラビア半島を中心とする諸国であるが、雨量が少なく砂漠化した地域が多いため、植生も貧弱である。従って薬草類はイランやトルコ、ヨーロッパ、アフリカなど周辺諸国からの輸入品が多く、利用法はそれらの地域からの情報に準じ、また独自の方法もみられる。風邪にはハーブティーやレモンティーに砂糖を多めに加えて飲むとの話を何度か耳にした。

- 南～東アジアは植生が豊富であり、中医学やア

ユルベータ、ジャムウなどの伝統医療などがあり、それらに由来する民間療法もある。また高齢者に限らず若い人も各々の地域の民間療法で予防や治療を行う人も多い。中央アジアでも各地に独自の民間療法があり、薬草市場や薬局では新薬よりもそれらの伝統に基づく風邪薬を好んで選ぶ人も少なくないという。

- 中南米にはマヤ、インカなどの文明があり、伝統医療に基づく療法もある。また中南米は歴史的にスペインからの影響が残っており、なかでもアルゼンチンやペルーの薬局や市場ではスペインで用いられる処方や生薬も見受けられる。よく知られた方法として、風邪にはアセロラドリンクや紫イペの樹皮の煎液が用いられる。変わったところでボリビアの首都ラパスの中心街には薬草店が並ぶ“魔女通り”があり、様々な薬草とともにリヤマの乳児のミイラなどもあり、呪術的な方法も残っている。グアテマラやホンジュラスなどでマヤの伝統療法について尋ねたところ、「それは秘伝であり、また風邪をひいていない人に薬は売らない」と断られたこともあり、中米では不明な点が多い。

現在ではインターネットやスマホの普及により風邪に関する情報も得やすくなり、薬局で薬を購入した医療機関で治療を受けるのが一般化しているのではなかろうか。

Ⅲ. COVID-19の特徴

1918～1920年世界にパンデミックを引き起こしたスペイン風邪（新型インフルエンザ）は数千万人の死者を出し、20～40代の死亡が多かった。一方COVID-19は各年代に感染するものの、死者は65才以上の高齢者に偏っており、その大部分はがん、糖尿病、呼吸器疾患、心疾患など生活習慣病に類似する持病を持ち、免疫力が低下した人であった。感染地域にも違いがあり、東～東南アジアでは感染率や死亡率は桁違いに低い。なかでも日本は高齢化率が世界で最も高いにも関わらず低死亡率であり、諸説あるものの謎である。日本人は“三密”など規則を遵守する民度の高さが影響していると思われ、今後の推移が注目される。

現在COVID-19に対するワクチン開発が進められているものの、様々なウイルス由来の感染症の

なかで、撲滅された例は天然痘ウイルスのみである。インフルエンザに対しワクチンがあるとはいえ、効果には有効期間があり、毎年冬を迎える時期に接種を行っている。COVID-19のワクチンが開発されたとしても、風邪やインフルエンザと同様に変異を繰り返し"with コロナ"として定着する可能性が高い。

日本ではCOVID-19による感染者・死者は、例年風邪やインフルエンザのそれに比べ低いにも拘

らず、マスコミなどの過剰な報道もみられる。必要以上に不安になることはないが、今後両者が流行し、重症化率が高まる可能性もあり、油断は禁物である。風邪に限ったことではないが、やはり健康や免疫力の保持増進が重要であることを再認識させる。

表1 風邪に対する世界の民間療法

	国名	主な予防・治療法
ヨーロッパ	イギリス	予防：ニワトコの花の煎液やレモン汁のお湯割りに蜂蜜を加えて飲む。 軽い風邪：栄養のある食事を取り、安静にする。生姜湯を飲む。
	ドイツ	予防：日々の冷水シャワー。引き始め：赤ワインに卵と砂糖を入れて飲む。風邪がひどくなった場合、カモミールなどハーブの煎液や牛乳に蜂蜜を加え、温めて飲む。
	フランス	治療：蜂蜜を加えた牛乳、ラム酒のお湯割り、ホットワイン、野菜スープなどを飲む。
	イタリア	治療：カモミールに重曹を加えて煎じた液を布に浸み込ませ、顔に乗せて深呼吸する。レモンや生姜の蜂蜜漬けを食べる。ホットワインを飲む。
	スペイン	予防：搾りたてのオレンジジュースを毎日飲む。 治療：熱い牛乳に蜂蜜を入れ飲む。熱いレモネードを飲み、すぐ寝る。
	スイス	鎮咳：蜂蜜入りのワインを飲む。喉の痛み：玉ねぎの煮汁に蜂蜜を入れて飲む。
	ベルギー	治療：レモン汁を入れた紅茶、ラム酒などを飲む。
	ロシア	引き始め：ウォッカに胡椒を入れて飲む。アロエを食べる。 予防：サウナに入り、白樺の枝で身体を打つ。
中東・アフリカ	トルコ	引き始め：菩提樹の花や葉を煎じ、砂糖とレモンを入れて飲む。
	イラン	治療：オレンジやレモンのジュースを飲む。
	ヨルダン	予防：紅茶にペパーミントを加えたもの、あるいはオレンジジュースを飲む。 治療：オレンジジュースに蜂蜜とレモンを加えて飲む。
	エジプト	治療：レモン汁に蜂蜜を加えて飲む。長ネギ類を食べる。
	エチオピア	治療：レモン汁に蜂蜜を加えて飲む。紅茶に生姜の煎液とシナモンを入れて飲む。
アジア	ギニア	治療：生姜とパイナップルをミキサーにかけ、搾り汁に水を加えて飲む。
	インド	治療：紅茶にクローブの花と生姜を煎じた液を入れて飲む。
	スリランカ	治療：生姜を搗って紅茶に入れ飲む。コリアンダーと生姜を煎じて飲む。
	ネパール	治療：お湯にターメリック粉と少量の塩を加えて飲む。
	インドネシア	治療：温めた牛乳に生卵を入れたもの、お湯に蜂蜜と生卵を入れたもの、生姜湯などを飲む。
	マレーシア	予防：ニンニク、唐辛子を食べる。治療：朝鮮人参の煎液やココナツジュースを飲む。
	フィリピン	予防：オレンジジュースを多めに飲む。引き始め：グアバの葉や生姜を煎じて飲む。
中南米	中国	治療：熱のある場合、板藍根（ばんらんこん：ホソバタイセイの根）を煎じて飲む。
	韓国	治療：料理に唐辛子を加える。
	メキシコ	引き始め：チキンスープ、レモン汁、ハッカの煎液などを飲む。食事に生姜を加える。
	ホンジュラス	治療：お湯に生姜と砂糖を加えて飲む。
	ペルー	予防：果実を搾って飲む。治療：酒にレモン汁を加えて飲む。
	ブラジル	治療：アセロラドリンク、紫（むらさき）イペ（パウダルコ、タヒポ）の煎液を飲む。
	チリ	予防・治療：レモン汁に砂糖を加えて飲む。

薬用植物栽培地を訪ねて(3)

新潟県新発田市・新潟市

広報委員会 委員長 池村 国弘

静かな山あいに育む薬草・薬樹～新発田市

新発田市は新潟県の北部に位置し、その市域は越後平野の穀倉地帯から飯豊山系に及びます。2014（平成26）年3月に連携協定を締結し、市の南西部に位置する松岡地区に約90アールの圃場を設けて薬用植物を栽培しています。新発田市の生産体制は、任意団体「松岡薬草生産組合」を組織して実務に当たられていることが特色です。取材にあたっては、新発田市農林水産課 生産振興係の肥田野 善隆様にお話を伺いました。



写真1 松岡地区圃場入口。獣害避けの電柵が完備されている



写真2 後列左から
新潟県新発田地域振興局普及課 課長 保苅洋一様、新発田市農林水産課 主任・肥田野 善隆様、係長・齋藤 文美生様、課長補佐・渡辺 貴守様
前列左から
松岡薬草生産組合 会計・天尾 太美雄様、代表・土井 光信様、副代表・湯浅 生夫様

■安定した生産は、ていねいな基礎研究から

——現在の薬用植物栽培品目について教えてください。また出荷段階にある品目、あるいはそれに近い状況の品目などがあれば現状についてもお説明いただくと幸いです。

シャクヤク、トウキ、ホソバオケラを栽培しています。このうちシャクヤク、トウキが出荷段階にあります。現在最も力を入れている品目はシャクヤクで、2020年5月に、2019年収穫分を初出荷しました。シャクヤクは出荷まで4～5年かかり、株分け増殖による苗数の確保には苦労もありましたが、開始7年目となり、毎年一定量の出荷が可能な作付面積となりました。次年度以降は生根出荷と乾燥出荷の2形態を検討しています。

——シャクヤクはどのような品種・系統を栽培されているのでしょうか。また実際に作付けされての気づきなどはありますか？

「^{ぼんてん}梵天」および「^{やまと}大和芍薬」を主に栽培しています。「梵天」は安定した固定品種ですが、「大和」はいわば系統群で、花の色などの形質に幅がありますね。また品種間でうどんこ病等の発生率に差がみられました。そのほか、約10アールの圃場でシャクヤク各品種の試験栽培も行っています。優良な品種・系統の選定も今後の課題の一つです。



写真3 シャクヤク「梵天」（新発田市農林水産課提供）



写真4 シャクヤク「大和芍薬」(新発田市農林水産課提供)

——なるほど、実際に作って初めて判明する要素は大切ですね。そのほか栽培の過程で苦労や試行錯誤されたことや、それらに対する解決策や知見などがありましたらご教示いただけますでしょうか。

マルチ資材の比較検討を行いました。除草等の省力化、安定した生育に有効なマルチですが、経済性も重要です。白黒両面マルチは地温抑制効果にすぐれますがコストも要します。極度に高温の年は別として、地上部が育てば地表への直射光も遮られるので、通常は黒マルチで十分と判断しています。

マルチ施用時は追肥方法も課題になります。シャクヤクは栽培期間が長く追肥が必須です。根が活発な部分のマルチに穴をあけての追肥が最も効果が高いのですが、労力を要する作業です。緩効性肥料を用いると追肥回数を少なくでき、これもコストを考慮して検討してまいります。



写真5 ヤマトトウキ生育状況

トウキでは育苗の歩留まり向上と苗数の確保が課題です。播種後の地温が高かったり土壌が乾燥したりすると発芽率が低下するので、温度・水管理が確実ですが、コスト面を含めた検討が必要です。定植時期についても検討しました。またトウキは抽苔(ちゅうだい：花茎が出ること。いわゆる「トウ立ち」)すると薬用価値が失われますので、抽苔率を抑え収量を向上させるノウハウの確立に努めているところです。

——ありがとうございます。栽培事業を軌道に乗せる上では生産者その他関係者との連携も大切と存じます。新発田市における生産体制の特徴や、コミュニケーション上で重視されていることは何でしょうか。

現在の当市の形態は、市の実証事業に対して任意団体に取り組む形態です。複数の方が共同で管理する体制ですので、継続出荷及び品質の安定・均一化のためには個別農家への委託よりも有利な体制であると考えています。その一方で、他人任せにならないよう責任範囲を明確にするべく、よりよいコミュニケーションと組織体制の強化が一番の課題と感じています。

——そのほかの課題についてはいかがでしょうか。

収穫後の乾燥調製(修治)については、詳細について公開されていないところが多く、検討材料も少ない状況で試行錯誤しています。また、出荷先により規格が異なる場合があることや、簡易に測定できる基準がないことにも苦慮しています。

——ありがとうございます。協会としても情報共有の場を継続的に提供してゆくことが課題であると考えています。

■地域環境を活かした薬木の生産

松岡地区は平野部と山間部の接点にあたり、付近には山地性の薬用植物も自然分布しています。たとえば落葉低木のクロモジは、生薬名をウシヨウ(烏樟)と称し、身近なところでは薬酒などに用いられます。新発田市には、クロモジの中でも日本海側に分布し香り高いオオバクロモジを豊富

に産する山があります。自然の植物資源を保全しながら出荷につなげている様子を見学しました。



写真6 スギ植林地の低木層に優占するオオバクロモジ

——クロモジの出荷状況について教えていただけますでしょうか。

精油成分に富む細めの若枝を出荷しています。収穫時には太い部位も混ざりますので、それは適当な大きさに割り、クロモジの香りを楽しむ入浴剤として、無駄なく活用しています。

クロモジが生える面積はかなり広大です。しかし道路から遠いと搬出が困難となり、経済的に収穫・出荷できるエリアは限られます。クロモジは萌芽力が強く、収穫後数年で再び収穫できる大きさに育つので、計画的に収穫→育成のローテーションを行うことで持続的な出荷につなげています。



写真7 収穫したクロモジの枝（新発田市農林水産課提供）

■新発田市モデルの確立

——最後に、薬用植物栽培における新発田市のア

ドバンテージについて、また今後の展望、ロードマップなどについて語っていただければ幸いです。

薬用作物は栽培期間の長いものが多く、毎年安定した量の継続出荷及び品質の安定・統一が販路の確保に大切です。販路が確保されつつあるので、現在取り組んでいる団体をモデル地区として、共同管理のメリットを引き出して行きたいと思います。このモデルが市内に普及し、薬草といえは新発田市！となるようにしていきたいです。



写真8 試し掘りしたシャクヤク根の断面

圃場ではシャクヤクの試し掘りの様子もを見せていただきましたが、根の断面は白く充実して、良好な生育を示していました。圃場が山あいの緩斜面にあって、水はけが良いことも根系の生育にプラスと思われます。さらにクロモジの山もほど近く、土地のもつ力強さを感じる取材となりました。

研究施設と農福連携の事例～新潟県新潟市

新潟県の県庁所在地としての「大都市の顔」と、全国の市町村別で最も多い水田耕地面積をもつ「米どころの顔」をもつ新潟市。稲作の印象が強い新潟市の農業ですが、野菜、花卉、果樹などの栽培も盛んで、市南部にある農業活性化研究センターではこれら作物の栽培実証や土壌診断、相談事業などを通じて農業者への支援を行っています。

新潟市における薬用植物栽培事業は2014（平成26）年3月に連携協定が締結され、同センターが中心となって取り組まれています。同センターが系統維持・原種苗の確保と栽培研究を担い、生産と出荷を福祉作業所と連携する体制が特色となっています。取材にあたっては農業活性化研究センターの所長・横木 茂之様、所長補佐・中村 晴彦様、主査・渡辺 智之様にお話を伺いました。



写真9 新潟市農業活性化センター外観



写真10 左より
主査・渡辺 智之様、所長・横木 茂之様、所長補佐・中村 晴彦様



写真11 夏7月、センター圃場で開花するコガネバナ（新潟市農業活性化研究センター提供）

■農福連携の事例となる役割分担

——新潟市における栽培品目についておきかせください。

チリメンジソ、シャクヤク、ハマボウフウ、ミシマサイコ、キキョウ、コガネバナ、キクバオウレン、チョウセンゴミシなど徐々に栽培品目は増加しており、生薬の種類で23品目、維持中の系統数で36系統が現存します。

——同一生薬であっても系統単位での管理は大切ですね。多種多様な品目・系統を維持されていることに驚きます。それらのうち出荷段階にあるものはどの品目でしょうか。また農福連携型の生産体制について、具体的にはどのような役割分担と特色があるのでしょうか。

農業活性化研究センターは薬用植物各系統の収集と原種苗の維持・栽培研究を担っています。センターの目的は、市内で薬用植物の生産を増やすことにありますが、生産者への原種苗の供給も行うことも目的としています。国内での生産が増加するのであれば、各産地へ種苗を供給する生産者も必要となることを想定して、原種苗の管理を行っています。

生産～出荷については、農業を行う福祉作業所に担当していただいています。福祉作業所には薬用植物の圃場があって、チリメンジソ（生薬名：ソヨウ）は令和元年度より京都府の実需者へ向け

出荷実績があります。またシャクヤクは平成30年度より福祉作業所での栽培に着手し、新発田市のシャクヤクと同様に、近く実需者への出荷を見込んでいます。こういった形で農福連携型の生産事例を積み重ねています。



写真12 福祉作業所の圃場で生育するチリメンジソ (新潟市農業活性化研究センター提供)



写真13 福祉作業所の圃場で生育するシャクヤク (新潟市農業活性化研究センター提供)

——農業活性化研究センターを拝見し、多種多様な農作物を試験されていることにも驚きました。センターの概要について教えてください。

農業活性化研究センターは、旧・新潟市園芸センターの試験研究部門を承継して平成25（2013）年6月に開設されました。敷地面積3.7ヘクタール、うち栽培ほ場（露地+温室）が約1.2ヘクタール、温室（ハウス）16棟の設備を有しています。生産者に一番近い試験研究機関として、毎年、管内JAや県農業普及指導機関と連携し、試験課題の設計や試験成績の発表を主業務としています。また、生産者団体などに対する栽培試験概要の

説明会を行うほか、次世代への教育・啓発の一環として、隣接する公設民営の教育ファーム「アグリパーク」で学習する小中学校のうち、希望校に対しては、教育委員会が設定するアグリスタディプログラムの中でセンターの見学を行うことができます。

■優良系統を未来へ「つなぐ」ということ

——品種や系統の選定、維持等における工夫点は、どのようなものがあるでしょうか。

在来の薬用植物は、遺伝的に多様であるため、一部の品目で形質確認しながら系統を区別しています。農業活性化研究センターでは野菜・花卉・果樹の栽培研究も行っていますので、薬用植物を栽培できる面積には限りがあります。その条件下で、より多くの薬用植物系統を維持するためにいくつかの工夫をしています。たとえば種子繁殖できる品目は、比較的容易に増殖や保存ができますが、株分けなどの栄養繁殖で種苗を得る品目では1株を大きく育てて維持を図っています。

原種苗維持している薬用植物にはミシマサイコ、トウキ、ハマボウフウなどセリ科の植物が多くありますが、概してセリ科は種子寿命が短く、発芽率が低下しやすい傾向があります。このため種子寿命が尽きる前に播種して育て、次世代の種子を得る「種子更新」が定期的に必要です。種子更新の最適な間隔・サイクルを模索しているところです。



写真14 同センターで系統維持中のハマボウフウ



写真15 採種用のヤマトトウキ。奥は花卉のケイトウ



写真16 ヤマトトウキの開花・結実
(新潟市農業活性化研究センター提供)

■米どころならではの、薬用植物栽培とは

——目下の課題となっていること、およびそれに対する取り組みについておきかせください。

植物としての作付けのしやすさとは別に、生薬としての品質基準をクリアすることが課題となっています。局方にある性状の記載、また実需者が設ける形態・成分等の各社基準を満たす品質のものを、いかに収量よく得ていけるかを検討する必要があります。キキョウ、シャクヤクなど地下部を収穫するものは、生育途中で逐一確認ができないため、栽培の失敗事例を出して、知見を得てゆくことも重要と考えます。

また、生産の展開・普及に際して、新潟市での主要な農産物は依然コメであり、栽培に複数年を要する薬用植物に、生産者は馴染みがありません。福祉作業所での生産事例の蓄積から、普及への足掛かりにできる方法論を模索しています。それから修治（収穫後の加工）も生産者にとって馴染みのない中、如何に省力化を行うかが課題であ

り、既存の機械を活用しながら実需者に受け入れられる形状を検討しています。

——ありがとうございます。未知の要素のある薬用植物栽培に取り組んでいただける農家の方は、チャレンジブルな活力ある方ということになるのでしょうか。事業の理念と農業活性化研究センターでの研究成果に共鳴して、薬用植物に興味を持つ生産者が増えることを期待したいと思います。

最後に、新潟市における薬用植物栽培のアドバンテージと、今後の展望についておきかせください。

国産の薬用植物の重要性が高まっているとはいえ、その需要は未知数であり、中国からの原料供給も依然多いと聞いています。当センターは、新潟市の公的な機関であるため、来たる国産薬用植物の需要増に備え、栽培ノウハウの蓄積や原種苗の供給、生産者へのコーディネートができるよう薬用植物における新潟市の基盤づくりを進めていきます。

——ありがとうございます。

本稿の作成にあたり、新発田市ならびに新潟市のご担当の皆様には、お忙しい中、また新型コロナウイルスへの対応で過去に類を見ない状況下であって、取材をご快諾いただきましたことに深謝いたします。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

今回は「薬用植物栽培地を訪ねて」シリーズの完結編、大分県杵築市の薬用植物栽培についてお伝えする予定です。

・ 委員会だより ・

総務委員会

委員長 坪井 正樹

I. 令和2年度 総務委員会開催

1. 第1回総務委員会

- ・ 日 程：令和2年5月15日(金)
- ・ 内 容：倫理規程・コンプライアンス規程の新設および会計処理規程の見直し

2. 第2回総務委員会

- ・ 日 程：令和2年11月7日(土)
- ・ 内 容：新年賀詞交歓会の開催方法の検討

3. 第3回総務委員会開催予定

- ・ 日 程：令和3年3月2日(火)
- ・ 内 容：理事会の議案内容の確認

II. 今後の令和2年度スケジュール

1. 新年のご挨拶

- ・ 開催日：令和3年1月25日(月)16時～17時
- ・ 場 所：オンライン開催

2. 第2回理事会

- ・ 開催日：令和3年3月17日(水)
- ・ 場 所：東神田事務所

III. イベント活動状況

1. 薬祖神例大祭

- ・ 開催日：令和2年10月16日(金)
- ・ 場 所：薬祖神社(福德の森)
新型コロナウイルスの影響により、今回は薬祖神社社殿前で神事のみ行い、例年例大祭時に行っていた参拝、子供囃子、直会、福引およびお汁粉の各祭事は中止となった。

2. 収穫感謝の会

- ・ 開催日：令和2年11月7日(土)
- ・ 場 所：東京都薬用植物園
新型コロナウイルスの影響により、通気性を考えて講演会会場を集会場に変更したり、薬用植物園見学会を中止するなど、例年と異なった対応を行った。

3. OTC普及啓発イベント「よく知って、正しく使おうOTC医薬品」

- ・ 開催日：令和2年11月27日(金)～28日(土)
- ・ 場 所：新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催となった。

藤井実行委員長挨拶をはじめ14社の企業プレゼンを事前に録画し、当日放映する方式で行った。小

池都知事も録画でご挨拶頂いた。

学術委員会

委員長 山内 盛

学術委員会開催は偶数月第2水曜日を定例としているので、本年度も4月、6月、8月、10月に開催計画があったが、4月はコロナのため越境自粛中につき中止、6月はメール会議、8月、10月はWeb会議で開催した。担当イベントと併せて以下のとおり活動状況を報告する。

I. 担当イベント 報告

1号事業

1. 生薬に関する懇談会(日本生薬学会関東支部との共催事業)

日本生薬学会関東支部に第36回テーマとして「葛根」を提案し採択されたが、7月8日開催の連絡会で、来年度へ延期することが決定された。

2. 薬草観察会(東京都との共催事業)

10月11日(日)弁天山～小峰公園コースで実施することになっていたが、コロナの状況を勘案し、中止した。

4号事業

1. 薬草クイズラリー

事業管理委員会の決定により、中止が決まったので、本委員会委員、薬用植物指導員の派遣を中止した。

2. 薬用植物指導員フォローアップ研修

秋の薬草観察会が中止されたので、本年度研修はすべて中止となり、研修ポイントはゼロとなった。

3. 専門指導員(永久資格)認定について

薬用植物指導員に関する規程第7条2号に基づき3名、第7条1号に基づき、指導員11名を専門指導員(永久資格)資格者として認定した。

4. 新常用和漢薬集の改訂

H Pの中で利用度が高い新常用和漢薬集をより充実させるために掲載候補品目については宿題方式で対応することにし、第4回委員会より作業を開始した。

薬用植物園事業管理委員会

委員長 加賀 亮司

1. 令和2年度事業管理報告

第1及び第2四半期予算執行状況及（令和2年4月1日～9月30日）

4～9月執行額 22,532,440円（税込）進捗43.62%（年間51,651,822円）

前年同期執行額 23,597,695円（税込）進捗45.71%（年間51,623,684円）

対前年同期差額 ▲1,065,255円 対前年同期比95.49%

2. 来園者の状況

令和2年4月1日～9月30日 来園者数 28,229人
前年同期 70,427人（前年度比 ▲42,198人、40.08%）

※3月28日（土）～5月31日（日）まで新型コロナ感染拡大による臨時休園

3. イベント実施状況

4月～9月に薬草教室5回、薬草観察会1回、その他イベント9回計画するも都と協議の上、すべて中止した。

4. 栽培管理

前年に引き続きいた管理体制のもと、円滑な栽培管理を行った。

都職員と「栽培報告会」及び「栽培連絡会」を月1回開催して進めている。

※8月以降、「栽培連絡会」のみとし、栽培報告は回覧にて確認。

5. 委員会活動

定期委員会

1、第1回事業管理委員会 5月11日～18日にメールによる書類会議開催

- (1) 平成31年度受託事業報告（年間）
- (2) 平成31年度第4四半期事業報告
- (3) 東京都連絡事項

2、第2回事業管理委員会 8月24日 オンライン会議にて開催

- (1) 第1四半期事業報告
- (2) 東京都連絡事項（新型コロナ対策、林地のナラ枯れ被害について他）
- (3) 薬草クイズラリーについて：中止決定
- (4) 薬草収穫感謝の会について：実施決定

薬用植物国内栽培事業委員会

委員長 小谷 宗司

2019年末中国武漢市で発生したとみられる新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2020年に入り世界的流行につながり、各国では、海外からの渡航者に対する入国制限や入国後の行動制限を課す動きは未だに強い。夏頃には感染者数が減少傾向にあることから、ロックダウンや行動制限の解除も徐々に行われてきたが、10月頃には欧米を中心に感染が再拡大したため、再び行動制限が取られ始めている。

新型コロナウイルスの感染拡大によって各業界へ影響が及び、また多数のイベントや行事などが中止・延期された。

当委員会に於いては、このような事態を考慮して継続して委員会開催の自粛をおこない、予定されていた第1回（4月14日）並びに第2回（10月13日）の委員会を中止とした。

I. 連携協定締結先自治体への薬用植物栽培指導

前記した通り本年度は当該委員会の開催ができなかったため、連携協定締結先自治体への薬用植物栽培指導の内容に関して十分な検討を行う機会がなかった。各自治体を担当する指導員からの報告書により

1. 各自治体の報告

- (1) 秋田県八峰町 新型コロナ感染拡大防止のため本年度の指導は中止。
- (2) 秋田県美里町 新型コロナ感染拡大防止のため本年度の指導は中止。
- (3) 新潟県新発田市 10月27日に実施
- (4) 新潟県新潟市 10月28日に実施
- (5) 岐阜県岐阜市 7月、11月の2回実施
- (6) 福井県高浜市 7月、9月、10月、11月の4回実施
- (7) 大分県杵築市 6月、7月、9月、12月の4回実施

II. 令和2年度 薬用作物産地支援体制整備事業 薬用作物産地支援栽培技術研修会

農水省の補助金事業である「茶・薬用作物地域特産作物体制強化促進事業」の一環として、薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上を目的とした栽培技術研修会が開催された。対象は普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者であり、下記に記載した全国7か所の会場において開催された。

・関東・北陸会場 新潟県新潟市駅南貸会議室

- KENTO 9月9日(水)～10日(木)
- ・北海道会場 千歳アルカディア・プラザ
10月1日(木)～2日(金)
- ・中国・四国会場 徳島県徳島市ホテル千秋閣
10月8日(木)～9日(金)
- ・東海・近畿会場 奈良県橿原文化会館
10月12日(月)～13日(火)
- ・東北会場 秋田県角館交流センター
11月12日(木)～13日(金)
- ・(予)九州会場 鹿児島県日置市中央公民館
12月8日(火)～9日(水)

関東・北陸会場では「製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について」と題され飯田修先生が講義され、「東京生薬協会が行っている薬用植物の国内栽培に対する支援事業を通じた栽培技術指導から、薬用作物の国内栽培における要点と課題について」と題し小谷が講義した。

中国・四国会場では「地域で有望なミシマサイコ、キキョウ等の栽培技術について」と題し飯田修先生が講義された。また、九州会場でも飯田先生の講義が予定されている。

広報委員会

委員長 池村 国弘

「会報」470号をお届けいたします。

Covid-19感染症の影響に振り回された2020年が過ぎました。新しい2021年、社会が勢いと安心を取り戻すことを願いつつ今号を編纂いたしました。

新年にあたり、東京都福祉保健局健康安全部長高橋博則様、および当協会藤井会長よりご挨拶を賜りまして、感謝を申し上げます。

今号の寄稿では、新型コロナウイルス関連、また感染症全般に関する伝統医薬からのアプローチや、実践事例に関する興味深い話題が揃いました。タイムリーな情報をご提供頂いた先生方に御礼申し上げます。

前号で見送りとなった「薬用植物栽培地を訪ねて」は、延期となっていた取材を幸い10月に行うことができ、記事を上梓できたことに安堵しております。秋の収穫期で多忙な中、取材をご快諾頂いた新発田・新潟両市の関係者の皆様に、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

イベント関連についても、依然として中止やオンライン開催への切替が続く状況下、今号でも変則的なご紹介となった箇所が多々ございますが、そのような中、昨年11月7日には「薬草収穫感謝の会」を、開催内容を縮小しながらも東京都薬用

植物園にて無事開催することができました。当日は予報を覆して晴天に恵まれ、1,200名に迫る多くの皆様のご来園を賜りました。ご来園頂いた皆様には会場内でのソーシャルディスタンスの確保等、感染対策へご理解・ご協力頂きありがとうございます。また諸準備にご尽力頂いた方々には例年のない作業も加わり、ご心労もあったことと推察申し上げます。改めて感謝いたします。

■新ホームページのご案内

前号でも言及いたしました、リニューアル作業を進めてきた新ホームページ(以下HP)が完成し、昨年9月2日から公開しております。新しいURLは <https://www.tokyo-shoyaku.com/> です。旧HPへのアクセスも自動的に新HPへ転送する措置を少なくとも2021年夏まで行いますが、お早めに「お気に入り」等の更新をおすすめいたします。

新HPへの切替時期の関係から、下表アクセス状況における令和2年度上半期のHPアクセス数は新旧両HPの合算値を掲載しております。

今回のリニューアルに際し、迷惑メールの多かった旧ドメインを廃し、ドメインも併せて変更いたしました。大手の検索サイトは新しいドメインに対して、内容が適切であるか再評価するため、変更当初は検索順位が低くなる可能性があります。このため次回のアクセス状況報告にて前年比の値が一時的な減少となる可能性も予想されます。しかし各部の最適化に加え、何よりも充実したHPの更新を継続することにより、検索サイトにおける評価も再び定まるものと考えております。

新HPでは情報への到達のしやすさを重視した設計を行いました。会報のバックナンバーも、ビジュアルに整頓されたインデックスが自動的に作られるようにし、目的の号が探しやすくなっております。どうぞご利用ください。今後とも協会HPの一層ご愛顧ならびにご指導を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

■ホームページのアクセス状況

期間	訪問数	ユーザ数	ページビュー数
2019年度上半期 (A) 2019年04月01日～ 2019年09月30日	180,924	122,125	391,281
2019年度下半期2019 年10月01日～ 2020年03月31日	181,971	133,489	367,866
2019 (令和元) 年度合計	362,895	255,614	759,147
2020年度上半期 (B) 2020年04月01日～ 2020年09月30日	191,695	139,321	423,924
上期 前年同期比 (B/A)	106.0%	114.1%	108.3%

■新HP 会報バックナンバーページ



連絡事項

1. 高浜町薬用植物栽培連携協定更新 (延長)

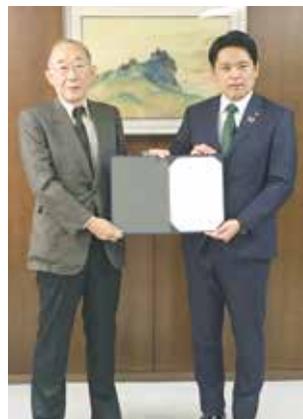
日 時：令和2年10月23日(金)10時45分から
場 所：高浜町庁舎町長応接室
内 容：概要説明と記念写真
延長期間：令和2年4月1日～令和5年3月31日まで



高浜町集合写真

3. 岐阜市薬用植物栽培連携協定更新 (延長)

日 時：令和2年11月16日(月)10時00分から
場 所：岐阜市役所本庁舎3階市長応接室
内 容：概要説明と記念写真
延長期間：令和2年4月1日～令和5年3月31日まで



末次専務理事、柴橋市長

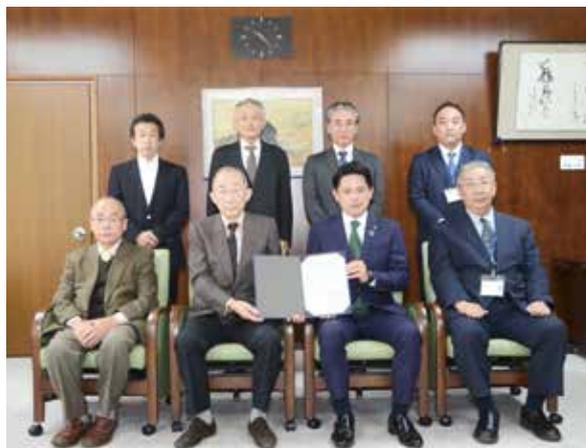
2. 杵築市薬用植物栽培連携協定更新 (延長)

日 時：令和2年10月30日(金)10時30分から
場 所：杵築市役所市長室
内 容：概要説明と記念写真
延長期間：令和2年4月1日～令和3年3月31日まで



永松市長、
末次専務理事

杵築市集合写真



岐阜市集合写真

4. 第13回 OTC医薬品とセルフメディケーション
 (よく知って、正しく使おう OTC 医薬品)
 開催日：令和2年11月27日(金)、28日(土)
 内 容：オンライン開催
 Web参加者：約40,000名

5. 薬草収穫感謝の会

開催日：令和2年11月7日(土)10:00~13:00
 場 所：東京都薬用植物園
 来園者：1,187名
 講演会テーマ：当園で見られる木の实
 ~林からの贈り物~
 講 師：和田浩志先生
 (東京生薬協会 学術委員)
 講演会参加者：200名



受付の様様



薬祖神 (神農)

6. 秋田県美郷町・学術研究飼養施設

—第3回 稚ガニ (上海ガニ) の放流—

日 程：令和2年12月3日(木)14:30~

場 所：秋田県美郷町千屋字雷電川原276-1

挨拶：(公社)東京生薬協会 会長 藤井 隆太

挨拶：秋田県美郷町 町長 松田 知己

養殖池に放流指導：

株式会社健興通商 代表取締役 傅 健興

主 催：公益社団法人東京生薬協会

株式会社龍角散



行事 (祭礼)



稚ガニ放流開会式 松田町長、藤井会長、傅社長



講演会の様様



稚ガニ放流



放流した稚ガニ



藤井会長フルート演奏

7. 令和3年 新年のご挨拶

(新年賀詞交歓会に代えて完全オンラインで開催)

日 程：令和3年1月25日(月)16:00～17:00

場 所：龍角散ビル1Fロビーおよび9F会議室より中継

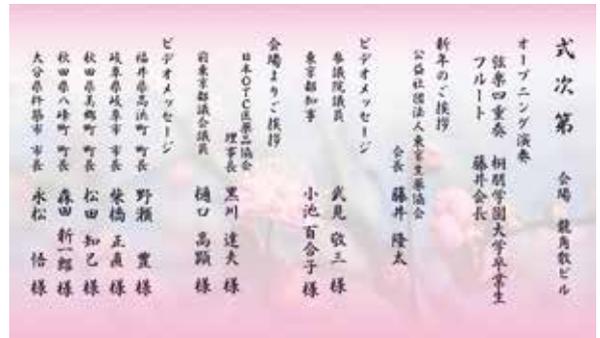
アクセス数：約80件



小池都知事・藤井会長
(都庁にてビデオメッセージ収録時)



藤井会長挨拶



式次第（オンライン画面より）



オープニング演奏
藤井会長（フルート）＋弦楽四重奏

(表紙) ナンテンの解説

●元昭和大学薬学部 磯田 進●

ナンテン

ナンテン *Nandina domestica* Thunberg (メギ科) は、関東地方以西から中国大陸に分布し、明るい疎林などに生育しています。古くから観賞用に栽培していますので、日本での分布は本来の自生種であるか定かではありません。葉は互生し有柄、葉身は3回3出複葉で小葉は披針形を呈しています。花は白色、初夏から夏にかけて咲きます。果実は球形で晩秋から冬に紅熟し、内部には1~2個の種子を生じます。稀に果実が淡黄白色のシロミナンテン(表紙写真参照)を見ることがあり、栽培品種または変種としての位置づけになります。

和名と学名

和名は漢名の南天燭(なんてんしょく)や南天竹(なんてんちく)に由来しています。この「燭」とは赤い果実を灯り、「竹」は小葉が竹の葉に似ていることから名づけられたといわれています。また音読みが難転(なんてん)と同じであるところから、縁起のよい植物として知られています。そのため「三つ葉南天」、「南天車」などの紋所にも用いられるようになりました。学名(属名)の *Nandina* は和名に由来し、また種小名の *domestica* は国内や家庭的なという意味があります。

生薬

薬用には秋から冬に成熟した果実を採取し、生薬名をナンテンジツ(南天実)といいます。外面

は帯紅色から淡灰褐色を呈していますが、形が崩れていない苦味の強いものを良品とします。昔から帯紅色のある生薬より白色のある生薬の方が良品といわれ、漂白した生薬が流通した時代もあったということです。しかし俗説で効果に差異はありません。

成分と薬効

成分は果実にアルカロイドの *domestine* および *methyl domesticine*, *protopine*, *nantenine*, *nandinine* など、また種子には脂肪油のリノール酸やオレイン酸などを含んでいます。漢方薬としては利用しませんが、民間では鎮咳薬、そのエキスをのど飴として利用しています。

コラム

昔から「南天の木の箸を用いると中風にならぬ」と言い伝えられています。この中風とは脳卒中などの後遺症による半身不随や言語障害、手足の痺れなどの症状を指すようです。残念ながら南天にはこれらの症状を改善するような成分や薬理作用は報告されていません。

現在、市販されている「南天の箸」の多くは、材の白い輸入材や漂白した素材が使用されています。しかし本来のナンテンの材は淡黄褐色を呈しています。またコルク層の内側は黄色を帯びて舐めてみると苦味があり、ほとんど流通していないということです。「南天の箸」として市販されている箸、いつ頃から現在のように白色の箸になってしまったのかとても興味が湧いてきます。



ナンテンの果実(一般的な赤色)



ナンテンの花



ナンテンジツ 生薬 (1目盛=1mm)



茎の内部は黄色を帯びる

No.470

東京生薬協会会報

発行/公益社団法人 東京生薬協会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-11-4
東神田藤井ビル7F
TEL 03-3866-5522 FAX 03-5809-3855
<https://www.tokyo-shoyaku.com/>
発行/2021年1月29日